

平成28年度 楠見東小学校 全国学力・学習状況調査結果の概要と具体的な取組

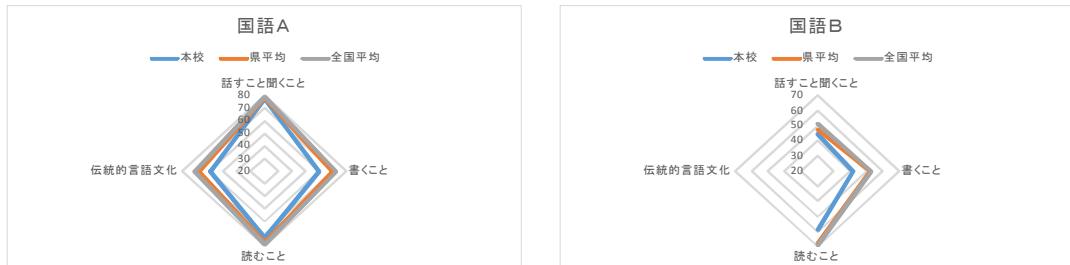
☆調査内容

(1) 実施日 平成28年4月19日(火) (2) 対象 第6学年 2学級 48名

全国学力・学習状況調査は、出題範囲を調査実施学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、国語・算数の2教科について、「知識」と「活用」の2種類の問題が出題されます。国語A・算数Aでは、身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり、日常的に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などについて、国語B・算数Bでは、知識・技能等を実生活の様々な場面で活用できる力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などについて出題されています。※理科については、隔年実施のため、本年度は実施していません。

◎教科調査結果の分析より

《国語科の傾向》



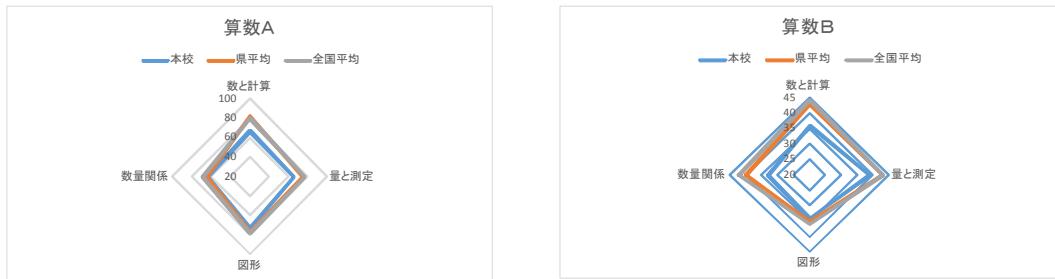
○国語Aでは、本校の平均正答率は62ポイントで、和歌山市の平均正答率69ポイントとの差が、マイナス7ポイント。国語Bの平均正答率は48ポイントで、和歌山市の56ポイントとの差がマイナス8ポイントで、国語について十分に力が付いていない項目がありました。

○ローマ字の理解においては平均を上回りました。漢字の読み・書きについて課題が認められました。[課題I]

○自分の考え方や、内容を読み取ったことを、決められた条件に合わせて書く力を身につける必要があります。 [課題II]

○この差は具体的には、平均正解数において、国語A、国語Bとも約1問の差となり、全員が1問づつ正解すると和歌山市平均に到達します。日頃からの着実な積み重ねが大事であるという結果です。[課題III]

『算数科の傾向』



- 算数Aでは、本校の平均正答率は66ポイントで、和歌山市の平均正答率76ポイントとの差が、マイナス10ポイント。算数Bの平均正答率は38ポイントで、和歌山市の46ポイントとの差がマイナス8ポイントで、算数について十分に力が付いていない項目がありました。
- 立体の面についての理解、割合の基本は平均を上回りました。小数の計算に誤答が多く、3・4年生で学習する数・量に関する計算に課題が認められました。 [課題IV]
- 自分の考えを正しく式や図形に表現することが苦手な傾向があります。様々な教科を通じ、考える力を身に付ける必要があります。 [課題V]
- この差も具体的には、平均正解数において、算数Aで約2問、算数Bで約1問の差となり、全員が1問または2問づつ正解すると和歌山市平均に到達します。日頃からの着実な積み重ねが大事であるという結果です。 [課題III共通]

全国学力・学習状況調査では、国語・算数の学力調査の他、児童質問紙調査があります。この質問紙調査では、児童の学校や家庭における学習状況や学校での指導の様子がわかります。

『質問紙調査結果より』

- 児童の自尊感情が低い結果となりました。様々な場面で、「やればできる気持ち」、「ほめてのばす」ことが大切です。
- テレビの視聴やゲーム等へ3時間以上費やす割合が平均に比べ多く、その結果、家庭学習の習慣が十分でないという結果でした。 [課題VI]

『調査結果を受けて本校が、具体的に取り組んでいること』

- 東タイム（月・火・木・金曜 13:30～13:45）に漢字学習を中心に、ドリルやプリントで繰り返し学習を実施します。 [課題I]、[課題III]解決のために。
- チャレンジタイム（月、水曜、下校時30分間）を設け、希望者に基礎学力の向上と学習内容の定着のための指導をします。 [課題I]、[課題II]、[課題III]、[課題IV]、[課題V]解決のために。
- グループ学習や自ら主体的に関わり学べる授業、学び合える授業に積極的に取り組みます。 [課題II]、[課題V]解決のために。
- 「家庭学習のすすめ」の推進。子育て講演会の開催により家庭での過ごし方等についての啓発を図ります。 [課題VI]解決のために。